

この地の文化を
未来につなぐ

鶴岡市民俗芸能交流発表会

令和5年**2月4日(土)**

13:30~(開場12:45)

入場無料

■会場■ **荘銀タクト鶴岡 大ホール**(鶴岡市馬場町11-61)

■解説■ **菊地 和博氏**(東北文教大学人間科学部特任教授)

■演目(出演団体)■

山王様の獅子舞(日枝神社獅子舞社中)

大山いざやまき(大山いざやまき・キッズ華の会)

渡前小学校25代目子ども獅子踊り(渡前小学校)

温海嶽熊野神社獅子舞(温海嶽熊野神社獅子舞保存会)

湯田川温泉神楽(湯田川温泉神楽保存会)

~新型コロナウイルス感染症予防
対策にご協力ください~

- ・受付にて検温を実施し、氏名、連絡先をご記入いただきます。
- ・体温が37.5度以上のお客様はご入場をご遠慮いただく場合があります。
- ・マスクを着用してご観覧ください。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染状況(発生状況)によっては、中止する場合があります。

演目・出演団体紹介

■ 民俗芸能名

(民俗芸能保持団体名/地域名)

由来や活動状況など

■ 山王様の獅子舞

(日枝神社獅子舞社中/鶴岡地域)

天正年中(1573~93)に疫病や犯罪が流行し、大宝寺村の宮侍の先祖某が供養と悪事退散を祈願して、獅子頭を作り、笛、太鼓を奏して旧春祭りの4月2日に回ったところ、たちまち災厄からのがれることができたという。積極的に外部上演に行っており、担い手のモチベーションの維持に繋がっております。



の維持に繋がっております。

本発表会には2年ぶり3回目の出演になります。

■ 湯田川温泉神楽

(湯田川温泉神楽保存会/鶴岡地域)

湯田川温泉神楽は古くから伝わっているものでありますが、江戸時代の徳川3代将軍家光公の頃(1620年代)から天保年代頃(1850年代)まで盛大であったと伝えられており、庄内藩酒井家にも年々藩主のお招きで藩邸で演じていました。大正初期になり、有志によりさらに研究練磨され、現代に伝えられています。

保存会では演技方と囃子方に分かれており、日々練習を積み、外部上演も積極的に行っております。

本発表会には今回初出演となります。



■ 大山いざやまき

(大山いざやまき保存会・キッズ華の会/鶴岡地域)

今から500年ほど前(天文元年[1532])、当時の尾浦(現在の大山)を統治していた武藤家の時代に教え広められたのが始まりです。拍子木と唄上げに合わせて踊り手たちが「せりふ」を交えながら踊るもので、当地にふさわしく人情細やかに洗練されて上品に唄います。

現在は「キッズ華の会」を結成し、子ども達への継承に努め、積極的に外部上演を行っております。

本発表会には4年連続4回目の出演になります。



■ 渡前小学校25代目子ども獅子踊り

(鶴岡市立渡前小学校/藤島地域)

「渡前獅子踊」の起源は不明ですが、文政10年(1827)以降の記録が「獅子踊り雑用控帳」として残されており、「大踊」「牝獅子掛り」「橋の掛り」「幕の掛り」という4つの演目が受け継がれています。

平成9年から渡前小学校における総合的学習の一環として、3年生の秋から「渡前獅子踊」の「大踊」をアレンジした「渡前獅子踊り(小学校バージョン)」を授業に取り入れ、伝承され、学校行事のみならず、地域のイベント等でも発表しています。

本発表会には今回初出演となります。



■ 温海嶽熊野神社獅子舞

(温海嶽熊野神社獅子舞保存会/温海地域)

熊野神社の獅子舞は、温海嶽修験道の関わりがあり、明暦3年(1657)に獅子頭が奉納され、寛文3年(1663)から氏子廻りが始まったと伝えられています。(温海[湯温海・湯之里]・一霞・釜谷坂・暮坪・小菅野代)毎年5月3日の例祭に先立ち、6日間各集落で獅子舞が奉祀され、家内安全、身体堅固、商売繁盛、厄難消除を祈願します。太鼓の調子に合わせて、躍動的に舞う姿に、権現様を仰ぎ、神人合一の念で信奉されています。

本発表会には2年連続の出演となります。



出演芸能解説

菊地 和博氏

(東北文教大学人間科学部 特任教授)

〈プロフィール〉

文学博士/日本民俗学・民俗芸能論専攻
日本民俗学会会員、民俗芸能学会評議員

[主な著書]

『東北の民俗芸能と祭礼行事』(清文堂、2017年)

『民俗行事と庶民信仰』(東北出版企画、2015年)他多数

[社会活動等]

伝承文化支援研究センター長、山形県文化財保護審議会副会長、
山形県民俗芸能団体懇話会会長
他、県内複数の市文化財保護審議会委員を務める